片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎

題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

片貝まつり近づく

渋滞解消へまず一歩

四尺2発、三尺7発、尺100発スターマイン等

浅原神社秋季大祭が8日前夜祭から9日、10日の奉納花火を中心に多彩な行事で繰り広げられる。今年は9日、10日がちょうど土曜、日曜日と重なるため、大混雑が予想されているが、片貝煙火協会と市商工観光課は、小千谷警察署の協力を得て自動車約千台を片貝町からシャットアウトする計画を実施する。

〈花火〉

今年も花火は豪快だ。世界一を自認する四尺玉は9、10の両日の午後10時に打ち揚げられる。三尺玉も過去最高の七発。9、10の両日の午後9時、9時15分、9時半に打ち揚げられる。プラスもう一発は10日午後2時に真昼の三尺玉として打ち揚げられる。

大型花火の他で目を引くのは、何と言っても還暦の伸竹会による尺玉百発入りの大スターマインだ。約七百万円の豪華版が夜空を彩る。

〈駐車場対策〉

マスコミに紹介されるようになってから、片貝まつりの魅力は全国区となり、年々観光客が増えている。特に昨年は9日に十万人、10日十二万人、僅か五千人の町に二日間で二十二万人も集めた。このため駐車場が足りず、駐車場を求めて右往左往する車で幹線はもとより枝線までもが大渋滞、パニック状態となった。

今年は土、日と重なり、天候さえよければ更に混雑が予想されていたため煙火協会と市商工観光課が解消に向け一歩動きだしたもの。

㈱第一測範製作所（約二百台）と松下電送㈱（約三百台）の両社の駐車場を借りて白山運動公園駐車場の約五百台と合わせて約千台の車を片貝町に入れない計画だ。

主に関越自動車道小千谷インターを降りた車を前記の駐車場に誘導する。白山運動公園から随時シャトルバスを運行する。シャトルバス運行にあたっては、片貝製作所が駐車場を提供、バスはここでUターンする。県道山谷―片貝線は両日共午後5時から同11時半まで車輌通行止めの処置がとられる。山谷、坪野の住人には通行証が交付され、片貝まつりへはシャトルバスの無料券を発行して協力してもらう。

片貝町の駐車場は例年どおり小学校グラウンド、旧中学校グラウンド等を無料開放する。交通規制についても昨年同様の処置がとられる。

厄年会長・コメント

平成会（成人、野中基樹・新屋敷・80人）
・若さあふれる、人を魅了する様な祭りにしたい。

緑翼会（33才、浅田美好・屋敷・68名物故者2名）
・人数が少ない会なので、少ないながら一丸となって祭りを盛りあげたい。

にじ会（42才、安達隆・茶畑・102名物故者2名）
・ただ騒ぐだけの祭りじゃなく伝統を重視し会の色を出しながら楽しめる祭りにしたい。

白樺会（50才、小野塚武次・四の町・82名物故者5名）
・50というふし目に立ち、一つのくぎりとして今後の人生が又盛り上がる様な祭りをめざす。

伸竹会（60才、吉原芳郎・一ノ町・154名物故者15名）
・尺玉百発入大スターマイン打ち上げ、今年も花火の歴史を書きかえて一層の団結を計りたい。

行事日程（9月8日）

PM7時20分～9時20分＝**民踊流し大会**（9月9日）
AM8時～PM3時＝**筒引き**
AM9時～10時半＝**片貝小学校鼓笛隊パレード**
PM2時半～11時＝**玉送り行進**
PM6時～9時＝**お囃子コンクール**
PM7時15分～7時半＝**花火太鼓**（9月10日）
AM8時～11時＝**玉送り行進**
正午～5時＝**相撲大会**
PM7時15分～7時半＝**花火太鼓**

片貝祭りについて

片貝人の血が騒ぐといわれる浅原神社の秋季大祭が近づいてきた。一名花火祭りとも、また人によっては「ばか祭り」と評したとも聞いている。

日頃は火の消えたような街が、祭りとなると異様な雰囲気となり、見方によってはこの二日間は一年の鬱積を払うための祭り？ともとられかねない。

前号『かたかい春秋』でも触れたが今年は土曜日と重なるため押し寄せる見物客をどう捌くかが問題で、片貝の英知を集めて対策を講ずべきことを指摘した。

幸いにも今年は煙火協会をはじめ多くの関係者も立ち上がり、周辺山谷、坪野、鴻巣の三町内、さらに第一測範、松下電送、片貝製作所等企業の協力を得て、白山運動公園を主駐車場に、そこから片貝製作所までのいわゆる西部線を使って越後交通のシャトルバスを走らせることに決まった。これは長い片貝祭りの歴史のうえで初めての試みであり、以前から強く叫ばれていたことが曲がりなりにも実現の運びとなったことで、素直に一歩前進と喜ぶべきであろう。

もともとこれだけの祭りをやりながら花火は煙火協会、前夜祭の民踊は公民館、相撲や演劇は社務と、それぞれ異なった団体によって今日まで運営されてきた。また成人をはじめとする各年代の記念行事も、自発的に継続して行なわれてきている。このような大規模なイベントにもかかわらずこれらを統一した実行委員会的なものもない。従って終了後の反省会も来年への申し送りもない。

そろそろ今年あたりを一つの契機として、行政も加えた新しい対応を考える時期にきているように思う。

かってこの祭りは浅原神社氏子の祭りだから、我々町民が楽しめばよいことで、勝手にくる見物客など他人にとやかく言われる筋合いはないといった意見が大勢を占めて今日まできた。

近年片貝祭りのポスターは町外はもとより、JRの鉄道網を使って全国的にも知られるようになってきた。このポスターを配布するということは言い方を変えれば「町外の皆様どうぞ片貝の花火祭りにきて下さい」と言っているのと同じことで、それならそれなりに受け入れ態勢を整えるべきと思う。折角来ても駐車場がないとか案内板が不明瞭とかは赦されない。観光客を町民も丁重に扱うのは当然の理屈となる。

ポスターを貼りだして宣伝しておきながら何らの対応をとれなかった、今までのやり方に問題があった。それなら来年からポスターは止めたといっても、客の方はそう簡単にストップとはならない。

今年はこれで小千谷側からのお客は処理できるとして、バイパスもない現状で来迎寺、池津方面から入ってくる車を全て案内板一つで処理できるのだろうか。

また花火見物席も多くの一般客をどうするか、見苦しい成人いじめを容認する若者の現状等、考えなければならぬ課題はまだまだ山積している。

主張

かたかい春秋

いよいよ我等がかたかいまつりがやってくる。今年とはちょうど土、日曜日と重なり、天候さえよければ、おそらく過去最高の人出が繰り出すことであろう。▼昨年の駐車場不足とそれに伴なう大渋滞はひどかった。これがきっかけとなり、片貝煙火協会と市観光協会は、今年から改革に乗り出すことになった。少々遅きに失っする感じもなくはないが、まずはその決意と行動力を評価すると共に、前回小欄で少々悲観的な論を張ったことを撤回し、お詫びすることにする。▼さて、煙火協会と当局にもうひとつ必ずやっていただきたいことがある。昨年露天商は、相撲場西側の空地に、いち早くきれいな柄の敷物で占領、後から来た一般客に一区画数千円で売っていたというのだ（残念ながら筆者は見ていなかった）。汗を流さないで、しかも人の褌で相撲をとるような形で、ボロ儲けの方法を考え出すあたりは流石と感心させられたが、断じて許される行為ではない。▼神社境内であるから管轄は社務か、それとも一般が花火見物する場所であるから煙火協会なのか、はたまた露天商が店を出す場所を取り仕切る市商工観光課か、認める日本一、世界一のまつりにしようではないか。となく一致団結して解決を図ることを望む。そもそもこのような商売をしてよいのかを小千谷警察署に相談すべきである。暴対法にあれだけ力を入れている警察であるから、何もアドバイスがないということはないだろう。▼二十歳に対するいじめ、未成年の飲酒の問題等々山積みであるが、ひとつずつ解決して、自他共に認める日本一、世界一のまつりにしようではないか。

男子＝町裏　女子＝二ノ町・茶畑

最後のJA綱引大会優勝

第十回JA片貝町綱引大会（片貝町農協主催）が、8月20日午後2時半過ぎから午後6時過ぎまで片貝中学校体育館で開催された。

組合員家族とのふれあいと連帯を深め、農協運動の健全な発展を図ることを目的に続けられてきた同大会は、当初の目的を達成したとして今回が最後の大会。

最後の大会となった会場は、男子十三チーム、女子六チームが参加、応援も含めると三百名を超え、熱気に包まれる中熱戦が展開された。特に男子は体重を申告しての本格的ルールにのっとっての勝負、女子も和気アイアイの中にも真剣勝負そのもの。男女の優勝チームは県大会（11月26日、聖籠町）出場権を得た。結果は次のとおり（敬称略）。

〈男子の部〉
①町裏（監督・黒崎仁、マネージャー・小野塚達雄、大矢光夫、安達孝人、大矢明、安達武夫、藤塚裕樹、丸山信一、大矢真、藤塚剛、本田勉）、②五辺ビクトリーズ、③五辺ファイターズ、乙組ボンバーズ

〈女子の部〉
①二ノ町・茶畑（監督・小宮昇威智、マネージャー・小宮陽子、吉井幸子、小野塚貴子、藤塚範子、舎川よし子、佐藤あゆみ、太刀川美由喜、佐藤浩子、安達由美子、藤塚千恵子）、②鴻巣はっするかあちゃんず、③五辺レディーズ、乙組シスターズ

※なお、JA片貝町では来年から綱引に代わるスポーツ大会を開くべく、種目を検討中。

中学バレー部　準々決勝で敗退

北信越中学総体で

新潟県代表として第十六回中学校北信越総合体育大会バレーボール女子の部（8月8、9日　福井県福井市体育館）に出場の片貝中学校は、一回戦石川県代表の紫錦台中をセットカウント二対一で敗り、準々決勝に駒を進めたが、長野県代表の高陵中に二対〇で敗退、惜しくも悲願の全国大会出場はならなかった。

お盆野球大会

町裏が3連覇

第四十回お盆町内対抗野球大会（片貝町体育協会、片貝町野球連盟主催）は、8月15日片貝スポーツ広場に七チームが参加して開催された。片貝中学一、二年生チームも参加、一回戦で町裏チームと対戦したが、五対〇で敗れた。決勝戦は町裏が四之町、五之町、八島連合チームを六対三で敗り三年連続優勝を飾った。

集めま～す

8月6日午前9時～　リサイクルかたかい

資源の再利用とゴミ減量化を目的に、月一回定期活動を行なっている「リサイクルかたかい」は、9月の活動を3日午前九時から九時半まで、片貝支所前で開催する。回収するのは新聞紙、雑誌、ダンボール、空缶（スチール、アルミ）、発泡スチロール、布類、乾電池など。

大矢亜季さん　奨励賞受賞

私の主張　地区大会で

わたしの主張'95小千谷・北魚沼地区大会（小千谷北魚沼地域広域青少年対策推進協議会、小出地域福祉センター主催）は、去る8月10日川口町の川口小学校体育館で開催された。各中学校から代表一名が発表、片貝中学校からは一年生の大矢亜季さん（町裏）が「あいさつと笑顔のある町」で奨励賞を受賞した。

老人クラブ・子供会　ゲートボール大会

世代間交流図る

第十二回片貝町老人クラブ・子供会交流ゲートボール大会（片貝公民館主催）が、8月21日越後製菓ゲートボール場で開催された。

町内毎の老人クラブと子供会の混成十七チームが出場、予選リーグ、決勝トーナメント戦が繰り広げられた。終盤に雨が降ってきたが予定どおり全日程を終了した。各チーム共、この日に合わせてラジオ体操の後練習を積んでの参加で、それだけに子供の上達が目につき、熟練の老人の技術とうまく連けいプレーで和気アイアイ、世代間交流を図った。結果は次のとおり（敬称略）

①寺町B（監督＝五十嵐繁雄78、中野卓62、小林計介75、五十嵐幸平66、小林奈美子6年、浅田奈緒子6年、相崎悟6年）、②第四ヤヨイ会・子供会A、③五之町A、④池津。

（写真は優勝チームと黒崎公民館長）

協議会長の動き

7/27 煙火協会事務所開き（片貝支所）
8/2 おぢやまつり実行委員会（サンプラザ）
8/7 片中バレー部北信越大会見送り　企画財政課長と懇談（市役所）
8/8・9 片中バレー部北信越大会応援（福井県永平寺町）
8/11 片中バレー部北信越大会報告会（ふるさと会館）
8/15 盆踊り大会団体審査
8/20 戦没者慰霊祭（正順寺）
8/25 第10回JA片貝町綱引大会（片貝中学体育館）
8/22 片貝まつり警備等打合せ（片貝支所）
片貝まつりにおける事故防止について
佐平治まつり（津南町結東）

五之町の安達常造さん

「片貝青年会物語」著す

戦時中のエピソードを詳述

五ノ町安達常造氏（72）がこの度十年という長い歳月をかけ「太平洋戦争飢餓の中の大いなる建設の日々・片貝村青年会物語」を著わした。当時の関係者や地元の人達に大きな感動を与えている。

そこには、戦争突入の経緯、戦中の片貝村の生活の様子、戦後の荒廃・廃虚のどん底の中からなんとか立ち直ろうとする町民の様子が詳細に綴られ、五百余名の青年男女が文字通り一丸となって、片貝村を支え希望を見い出そうとする血と汗と涙の物語が記されている。

安達さんは、当時片貝村青年会の副会長として黒崎敬五郎会長らと共に県内でも一早く青年会を結成。食糧難、就職難と戦争で多くを失った片貝村を復興させようと連日連夜の議論を重ね多くの業績を残した。

実例としては、防犯隊結成、郷土演芸慰安大会開催、教養講座、籠球大会、ピアノコンサート、レコードコンサート、道普請等々があり、その活躍ぶりは県下でもめざましいもので当時数々の新聞にも掲載された程でもある。

発刊のきっかけは、新潟県史編さん室に見い出され昭和63年県発行の「新潟県史通史編9現代」にとりあげられたことから。

そのことにより長年胸の中で暖めて来た思いが再び燃えあがる事になる。「生活の土台の全てを人々からうばい去る戦争は二度と起こしてはならない」この思いをいつか何かの形で後世の人達に残したかったという。

会の中心的人物であったため、多くの記録や資料が大切に保管されておりこれが多いに役立つこととなる。

おびただしい数の資料と三年前に突然おそった病気とたたかいながら、妻のキミさんの内助の功を受け、二人三脚でようやく一冊の本にまとめる事が出来た。

「これは、私一人で出来たのではなく、当時共にこの片貝村を築き上げた多くの人々の熱き思いが集結したものと思っている。当時の人々は郷土や国のためという強い思いや片貝人である事の誇りを持ち、常に理想と希望に燃えていた。そして誰もが前向きに生き、勇気ある提言をし、それを行動に移していった」と遠い過去を振り返る。

現在は前編に続く後編完成に意欲を燃やしている。

文中に登場するかつての同志から感謝や励ましの手紙が続々届いており、その中でもある女性は、「片貝の歴史はひいては日本の歴史であると感じ、後世への素晴しい遺産であるとその功績に拍手を送るものであります」と安達氏の努力と精神力に対し熱きエールを送っている。

又、本の中には、青年会発行の「片貝新聞」もとじられ、当時の片貝村の出来事などが詳細に知る事が出来、興味深いものとなっている。初版は六十冊製本されているが、後日増刷の予定。

ジャンボかぼちゃコンテスト

池津町内会の地域興し活況

ウワァー大きい！見事なかぼちゃが、8月27日朝、池津の県道沿いにズラリと並べられ人気を集めた。

池津町内会（堀井一位町内会長、六十四世帯）は、地域の活性化と親睦を目的に「池津ジャンボかぼちゃコンテスト」を開いており、今年で六年目を迎えた。毎年鎮守・熊野神社の祭礼に合わせ、8月最終日曜日に開催している。

5月中旬に一世帯に苗二本ずつを支給、後は各家庭が育てる。大きいかぼちゃを狙って丹精こめて育てあげる人、自然にまかせ苗につくだけ何個も育てる人それぞれだ。

この日を迎えるとマジックで氏名を書き込んだかぼちゃが次々と運びこまれる。受付けで計量を行ない、その数字がマジックで書きこまれ、県道沿いの歩道に展示される。

大人四人でやっと持ち上げることの出来る百kg級のジャンボから、十kgに満たない小作品まで様々。今年は約二百個が展示され、町民は和気アイアイの中観賞を楽しんだ。

総合優勝は神林賢二さんで125・5kg、116・5kgと上位二つを占めた。神林さんは二本の苗から三個のかぼちゃを作ったが「多くならないように気をつけた」とのこと。池津のかぼちゃは、10月に新潟伊勢丹デパートに貸し出され展示されることになっている。

▽重量賞＝①林四郎（100kg）、②吉田賞治（88kg）、③阿部まち子（73・1kg）
▽美形賞＝①山田貴弘（79kg）、②堀井勲（59kg）
▽変形賞＝①阿部五平、②本田徹、③堀井龍吉
▽特別賞＝堀井麻生
▽団体賞＝池津第2班（13件）

茶畑ちどり会が優勝

チーム対抗盆踊り大会で

チーム対抗盆踊り大会が8月15日浅原神社で開催された。今年は若いチームが参加して賑わった。審査の結果「茶畑ちどり会」（写真）が優勝した。以下②やよい大学民踊部、③平成会（成人）、④飛翔会、⑤翼翔会、の順だった。

なお、翌十六日の仮装盆踊り大会は午後からのどしゃぶりのため、残念ながら中止となった。

片貝小ガンバル女子メドレーリレーで優勝

市内水泳大会で

市内小学校親善水泳大会（8月1日、小千谷小学校プール）

【男子の部】
▽6年100m自由形＝③佐藤佑一
▽5年50m平泳ぎ＝⑥小野塚丈晴
▽5年100m平泳ぎ＝④本田拓也
▽6年100m平泳ぎ＝④目崎慎吾
▽6年50m背泳ぎ＝④浅田英人
▽6年50mバタフライ＝④佐藤佑一、⑤目崎慎吾
▽5年個人メドレー＝④小野塚丈晴
▽200mフリーリレー＝④佐藤佑一、浅田英人、目崎慎吾、小林亮太

【女子の部】
▽6年100m自由形＝⑤大矢久美子
▽6年50m平泳ぎ＝①太刀川佳江、③安達奈美、④大矢久美子
▽6年100m平泳ぎ＝①太刀川佳江
▽5年50m背泳ぎ＝④藤沢真弓、⑥佐藤英恵
▽6年50m背泳ぎ＝③藤塚千鶴子、⑥藤塚亜由美
▽5年100m背泳ぎ＝⑤佐藤英恵
▽6年100m背泳ぎ＝②藤塚千鶴子、⑤藤塚亜由美
▽5年50mバタフライ＝⑥山口朋子
▽6年50mバタフライ＝④小宮梓
▽5年個人メドレー＝①藤沢真弓
▽6年個人メドレー＝②小宮梓、⑤安達奈美
▽200mメドレーリレー＝①藤塚千鶴子、太刀川佳江、小宮梓、安達奈美
▽200mフリーリレー＝②藤塚千鶴子、小宮梓、安達奈美、大矢久美子

私も一言 読者の声

蛍を探して感じたこと

主婦　A・O

7月下旬、友人の「片貝の裏山にも蛍がいるよ」という声に誘われて、太刀川の坂の方に行ってみたのですが全くおらずガッカリ、次に中学校の上の方の片貝城跡へ通じる道の酒座川のえん堤のあるところへ行ってみました。

暗闇に目が慣れるまではなかなか蛍の光は見えませんでしたが、だんだん目が慣れるにしたがい、やわらかい光が一つ二つと目に入ってきました。うれしくなっておもわず「ほー、ほー、ホタル来い～」と歌を口ずさんでおりました。

それから一週間程たって相手が相手だけに楽勝と思いきや、斉藤の調子が悪いうえに、打線も中軸が好機で凡打の山でよもやの五対一で惨敗。

バスの一行は、行きは、飲めや歌えやの大ハシャギだったが、帰りの車中はお通夜のように静まり返っての帰りだったとサ。

仕掛人の中心人物、友田明石さん（農協参事）に、企画の動機を聞くと「そんなものはない。ただジャイアンツが好きなだけ」との返事、「それでも」と食いさがると「好きなジャイアンツを通して、仲間が集い融和出来たらそれにこしたことはない」と苦労する核心に近づく言葉が返ってきた。

「七十枚もの切符をどこから手に入れるの」との質問には、「それは秘密。大勢の人が四方八方手をつくして集める」とそっけなかった。

しかし、今年のジャイアンツは……ネェ。

ドームへジャイアンツ応援ツアー

8月12日、片貝から有志70名が

片貝のジャイアンツファンが、今年も大挙して東京ドームへ応援に行ってきた。

このグループ、近年は「長嶋ジャイアンツ応援ツアー」と銘うち継続しているが、正式な会則もなければ会長を初めとする役員も決まっていない。

今年はお盆直前の8月12日、巨人VS阪神戦を総勢七十名で観戦して来た。バス一台を貸し切り、バスに乗れない約三十名はマイカーや新幹線などそれぞれの手段でドーム入り。

この日は投手がハーラーダービートップの斉藤（雅）一や新幹線などそれぞれの手段でドーム入り。

この日は投手がハーラーダービートップの斉藤（雅）、

片貝ヒューマンウォッチング

郵便局 五十嵐局長は実行の人

集配特定郵便局の片貝局、五十嵐藤雄局長（57）は、平成元年に同局長として赴任してから早六年が経過した。

傍の人は〝決断と行動力の人〟と称す。着任早々片貝まつりに目をつけた。こんなに町民パワーが集結して、町外からドッと人出が繰り出す素晴しいまつりを、もっと片貝町の活性化のために有効利用すべき。真の活性化とは経済性が伴なってしかるべき――これが五十嵐局長の持論である。

おまつり善治こと、故本田善治さんとこのことで波長がピタリと合う。そしてまつりに物産展示販売を年々充実させてゆく陰の力となる。この五十嵐局長の考えに賛同して組織されたのが「かたかい組」（松井均会長）で、かたかいまつり以外でも片貝町の活性化を目指して種々活動を展開している。五十嵐局長は現在、かたかい組の助言者的立場にある。

赴任して数年後、局舎の移転改築の問題が浮上した。縮小及び廃止問題が絡んでいただけに、町協議会、市議等が危惧。特定郵便局だけに種々の事情から早期移転改築を目指すのであれば、個人で建てる他はなかった。大勢の町民に後押しされながら決断、東奔西走して今年一月新局舎オープンにこぎつけた。やはり〝決断と実行の人〟の評は間違いなさそうだ。

これらの活躍を見て、ある事業主から「片貝というところは、良い結果が出たら出たで酷評される所だョ」と忠告されそうであるが「そのようなことは本当にあった?」の質問には笑って答えなかった。

ずっと郵政畑を歩んできたと思ったらさにあらず。小学二年生の時両親と兄弟を相次いで亡くし、中学二年生でお寺に弟子入りしたことも。映画館全盛期にはこの音響の仕事、その後電気工事店、昭和三十年初めからテレビ修理技師となり多忙を極め体調をこわしてしまう。昭和三十四年から郵便局の仕事につき今日に至っている。

取材をしていて〝決断と実行力〟は、幼少の頃の苦労と、若い頃時代の最先端の仕事に従事していたために培われたもの、と分かった。

お知らせ――小紙では読者の意見投稿、情報提供をお待ちしております。意見投稿は原則として住所・氏名を明記の中からのみ採用しますが、事情によっては住所・氏名を明記のうえ匿名希望と書いて下さい。郵送は「片貝町10367――1片貝新聞社」へ。TELは84―3392松下記者まで。